

市民企画事業実施計画書

応募事業名	宇津木の森 再生プロジェクト2012
-------	--------------------

以下の(1)から(8)までの項目について、全てご記入ください。

(1) 事業の内容	<p>公募した市民が参加して、雑木林の整備を実践することによりその方法やノウハウを学びます。また、雑木林を活用してのアトラクションを体験します。これらを通して団体の活動をPRするとともに、市民の継続的な参加へ繋げてゆきます。</p> <p>年度で計5回の活動日を1セットの講座として約20名を募集します。</p> <p>講座の様子ならびに修了時の成果は市民に広く知っていただくために、随時、会のホームページで公開してゆきます。</p>
(2) この事業を企画した目的	<p>広報はちおうじ等を通して公募することにより荒廃した雑木林の現状を伝え、問題意識を持った方々の参加を促します。</p> <p>市民が自ら参加することにより、地元の雑木林に親しみを持ち、講座終了後も継続して整備に参加したり、雑木林を日々利用されることを狙いとします。</p> <p>講座修了者がさらに次年度の受講者を支援できるよう、人材を育成します。</p>
(3) 事業の実施により見込まれる具体的な効果	<p>具体的には、整備方法やノウハウを学ぶことにより、安全で体力と力量に見合った活動が継続的にできるようになります。</p> <p>また、アトラクションを体験することにより、整備だけでなく、様々な楽しみ方を実感していただき、応用することで、継続してゆくモチベーションにつながってゆきます。(効果を確認する方法として修了時にアンケートを実施します。)</p> <p>宇津木台緑地に関わる人が増え、緑地の整備が進むと共に市民の輪が広がります。</p>
(4) 事業を実施していくための運営体制	<p>22年度の活動経験(10回計画中、現在5回実施済み)をベースに改善を加えて実施します。</p> <p>現在のメンバー20名がスタッフ側に回り運営を行います。</p> <p>作業の安全管理と技術指導はNPO法人かながわ森林インストラクターの会からインストラクターを派遣してもらいます。</p> <p>講座開催時の駐車場、トイレ、会議室等はオリンパス株式会社 技術開発センター宇津木を無償で利用します。</p>
(5) 補助金を必要とする具体的な理由	<p>現在、会としての収入や口座残高はありません。</p> <p>活動人数が増えたり、新たな作業(間伐など)を始める際は新たな道具が必要となり、初めて参加される方が個人で準備するには負担が大きく困難です。</p> <p>また、参加者の安全管理を最優先としたいので、インストラクターの派遣費用は欠かせません。</p>
(6) 今回応募に際して特にPRしたいこと *なるべく審査項目に沿ってご記入ください。	<p>公益性:フィールドは八王子市所有の公共の緑地であり、昨今ニーズが高まってきている憩いの場、教育環境の場として整備することは公益性が高いものです。</p> <p>期待度:市民が自ら学ぶことにより、事業終了以降は自発的に活動を継続して、レベルアップをはかり、ゆくゆくはインストラクター役が現れることを期待します。</p> <p>補助金交付の必要性:安全管理と技術指導、さらに適正な道具には費用をかけるなければなりません。</p>

市民企画事業実施計画書

(7) 応募事業の年間計画	
4月	募集開始
5月	広報はちおうじ・他
6月	第1回講座 笹刈りと森林散策 ～鋸を使ってみよう・森の見方を覚えよう～ ・緑地内の笹刈り(鋸の使い方、手入れの仕方、笹の刈り方など) ・緑地内の散策(荒廃すると何がいけないのか? 動植物の観察など)
7月	第2回講座 除伐と森のクラフト ～木を伐ってみよう・森の材料で遊んでみよう～ ・低木の除伐(剪定の考え方、伐り方、伐った木の片付け方など) ・森のクラフト(シュロの葉を使ったバツタの編み方(持ち帰り)など)
8月	
9月	
10月	第3回講座 コナラの間伐とリース作り～太い木を伐ってみよう・クリスマスの準備～ ・高木の間伐(間伐の注意事項、伐り方、間伐材の利用など) ・リース作り(ツル植物の収集、森の素材の活かし方、リース作り(持ち帰り)など)
11月	
12月	第4回講座 竹林の間伐と門松作り ～竹を伐ってみよう・お正月の準備～ ・竹林の間伐(竹の性質、竹の伐り方、伐った竹の片付け方など) ・門松作り(伐った竹の生かし方、竹細工の紹介、門松作り(持ち帰り)など)
1月	
2月	第5回講座 樹木密度の調査と野鳥観察 ～森の健康状態を測ってみよう～ ・樹木密度の調査(調査の意義、調査の仕方、間伐率の求め方など) ・野鳥観察(双眼鏡の使い方、鳥の見方、鳥の聞きなしなど)
3月	修了証(ホームページにて公表)
(8) 今後自立した 事業として運営 していくための 考え方	2012、2013年度に事業を行うことで参加者がスタッフ側に回り、活躍されることを見込みます。また広報やクチコミにより新たな参加者を継続的に見込みます。事業を通して整備が進み、憩いの場、環境教育の場としての価値が高まり、整備への関心がさらに高まり、近隣企業からの寄付金等を引き出してゆきます。より質の高いイベントを開催することで補助金を賄う参加料を徴収します。

※この計画書には、平成24年度実施分を記入してください。複数年度に渡る一連の事業で次年度以降も補助金申し込みを予定している場合は、所定の様式による「複数年度の事業計画書」を添付してください。